

くらしナビ 生活 Lifestyle

kurashi@mainichi.co.jp

優良規格建材で児童不調



岩手県南部・奥州市の市立胆沢第一小学校（児童415人）で昨年7月中旬～10月初め、校舎の使用が全面的に中止された。前年度からの大規模改修工事で、教室の壁や床など内装材を一新したが、体調不良を訴える児童が相次いだためだ。

当時4年生の女兒が、最初に頭痛を訴えたのが3月初め。工事から出る化学物質が原因、との医師の診断書が提出され、翌4月には新4年の男児も、同様の症状を訴えた。

市教委は大型扇風機などで換気を強化し、工事途中で接着剤

「F☆☆☆☆」も防げず メーカーは換気促す

の種類も替えた。だが、ホルムアルデヒド、トルエンなどの「特定測定物質」5物質の濃度を測っても国の指針値を超える値は出ず、原因は不明だった。その後児童が相次いで体調を崩し、7月ようやく教室の使用が中止に。市長は市議会でも陳謝した。結局、不調を訴えた児童は74人になり、22人がシックハウス症候群と診断された。

診断を受けたある女兒の父親は「娘は頭痛を抱えながらも通学し、重症化してしまった。しばらくは歩いて通えなかった」と話し、別の女兒の母親は「子どもはシャンプーでさえ、気分が悪くなった。だるい時は、周囲には怠けているように見えてしまい、つらい」と訴える。同市教委の及川敏幸・学校建設推進室長補佐は「シックスクールが起きるとは『まさか』という感じだった。国の基準をクリアした『F☆☆☆☆』（エフ・フォースター）規格の建材を使えば、問題は起きないと考えていた」と肩を落とす。

*

生活保健科長らのグループは、道内のマンションや小学校で使われた水性塗料から、高濃度の「テキサノール」が揮発していたと発表。塗料は「F☆☆☆☆」だったが、マンションを購入した30代の女性は入居直後、気分が悪くなり実家に戻った。空気調査に立ち会った際も、立っていられたなかったという。無色無臭の「イソドデカン」や、「2エチルルーヘキサノール」などの検出例も報告され、いずれも「F☆☆☆☆」の建材を使った建物からだった。

「F☆☆☆☆」の「F」はシックハウスの原因となるホルムアルデヒドを指し、星の数が多い

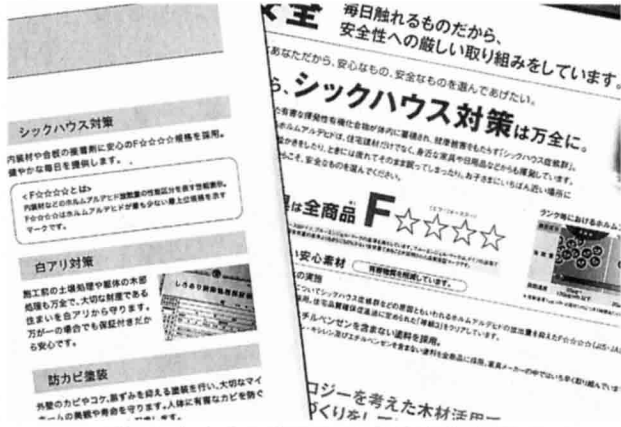
いほど放散量が少ない。ホルムアルデヒドは建築基準法で規制されているが、最良の四つ星「F☆☆☆☆」は使用面積に制限がなく、今はこの規格の建材を使うのが業界標準だ。「F☆☆☆☆」使用でシックハウス対策も万全」などとうたった分譲住宅のチラシも目立つ。

だがF等級は、ホルムアルデヒド以外の化学物質は無関係。シックハウス対策に詳しい京都市北区の建築士、渡辺公生さんは「建築関係者でもF☆☆☆☆さえ使えばシックハウス対策はOK、と思っている人が多い。室内と関係ない外装にF☆☆☆☆を使ったとPRする業者もあり、いかにシックハウス問題が理解されていないかを示している」と嘆く。

*

昨年12月に横浜市で開かれた「室内環境学会」では、耳慣れない化学物質が原因のシックハウスが相次いで報告された。北海道立衛生研究所の小林智

【田村佳子】



「F☆☆☆☆」をPRする住宅や家具のチラシ。ホルムアルデヒド対策には有効だが、過信は禁物だ